

平成26年度事業計画

1 自然再生活動

(1) ボランティアによる自然再生活動

日 時	実 施 内 容	募 集 人 員
6月28日(土)	山取苗木の採取・仮植 ブナ遺伝資源保存林の散策	一般公募 20人
7月26日(土)	同 上	同 上
9月27日(土)	山取苗木の採取・植栽 ブナ遺伝資源保存林の散策	白神山地と赤石溪流の観 光を考える会員

(2) モニタリング調査

自然再生活動拠点の抜き伐りを実施した箇所において、広葉樹稚樹の発生・生育状況を調査する。(植栽を行った箇所を対象とする)

(3) 種子による苗木生産について

自然再生活動拠点直近の林内にシードトラップを設置し、広葉樹の種子を採取する。

採取した種子については、当年度播種するものと、越冬し翌年度播種するものとを比較し、発生状況の違いなどを比較する。

平成23年度に播種した箇所(活動拠点2)、24年度に播種した箇所(活動拠点4)、及び25年度に播種した箇所の発生・生育状況を観察する。

(4) ボランティア団体等が実施する自然再生活動(植樹・育成等)において、技術・安全指導等で支援する。

2 森林環境教育等

日 時	参加人数等	場 所	内 容
5月24日	一般公募 30名	深浦町 十二湖	春の白神山地に学ぶ
9月 4日	鱒ヶ沢町 西海小学校5年生 24名	鱒ヶ沢町 東赤石山国有林 2057林班	植栽体験 くろくまの滝散策
9月 5日	鱒ヶ沢町 舞戸小学校4年生 38名	鱒ヶ沢町 東赤石山国有林 2057林班	植栽体験 くろくまの滝散策

日 時	参加人数等	場 所	内 容
10月22日	一般公募 30名 (※ 外国人が参加可能な英語版の森林教室も予定。)	西目屋村 暗門の滝	秋の白神山地に学ぶ
10月25日	一般公募 30名	深浦町 十二湖	秋の白神山地に学ぶ

3 NPO等との連携

美化清掃活動など各種活動に積極的に参加・支援し、互いに情報交換しながら信頼と連携の向上を図る。

4 森林生態系保護地域の保全活動

(1) 津軽森林管理署をはじめボランティア巡視員、グリーン・サポート・スタッフと連携した巡視活動を実施する。

なお、本年度から当センターがボランティア巡視員の巡視活動の事前届出、巡視報告書の取りまとめ等の事務を主体的に行うこととした。

(2) 白神山地遺産地域連絡会議と連携し巡視員会議等で関係機関と調整の上、合同パトロールやマナー向上パンフの配布などを実施する。

なお、本年度から当センターが合同パトロールの企画立案、パトロール実施報告書の取りまとめ等の事務を主体的に行うこととした。

5 ニホンジカの監視強化及び希少動植物の保護

(1) 白神山地世界遺産地域周辺のセンサーカメラ設置について
(別途説明)

(2) 希少動植物の生息・生育情報の収集

クマゲラ、アオモリマンテマ、シラガミクワガタなどの生息・生育場所の情報収集を引き続き行う。

6 森林病虫害防止対策

(1) 松くい虫、ナラ枯れ防止対策

早期発見と速やかな対応を行うため、巡視活動の実施や関係機関との連携を図り、被害を防止する。

(2) ブナ葉食害等

ブナ葉の食害や病虫害、巡視活動を行うとともに、巡視員等との連携を図っていく。

著しい食害が発見された場合は、虫を捕獲又は写真撮影などの現地調査を行い、研究機関に依頼し対応策等を講じる。

7 PR活動

(1) 活動展の開催

当森林生態系保全センターの活動をPRするため、2月から3月にかけて、青森市、つがる市において活動展を開催する。

(2) 広報誌の発行、HPの充実

広報誌「津軽白神ふれあい通信」を毎月発刊し、関係機関等へ送付し、情報発信を行うするとともに、HPに掲載する。

ニホンジカ被害拡大危機対策

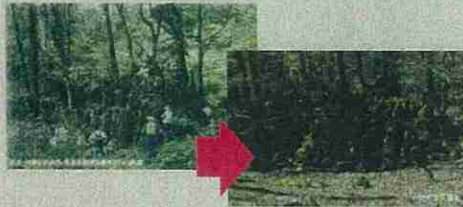
広域的監視体制を強化、新たな被害対策技術の実証、有識者を交えた検討会の開催などに取り組みます

背景

- 全国各地の森林や農地で、甚大なシカ被害が発生している。



シカの背が届く範囲に均一に被害が発生（長野県）



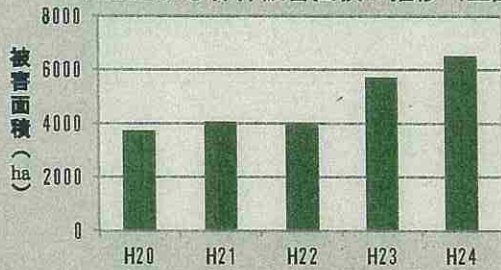
シカ食害により10年間のうちに植生が喪失（熊本・宮崎県境、左：1997年 右：2009年）



農地への侵入により、稲の食害など農作物への被害が発生

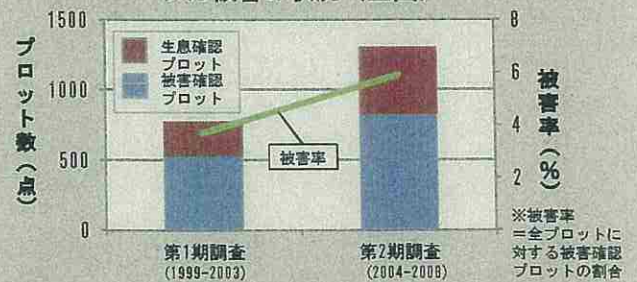
- シカの生息数・被害面積は全国で急速に増大している。

シカによる森林被害面積の推移（全国）



（出典）林野庁「各獣別森林被害面積の年度推移」

シカ被害の状況（全国）



（出典）林野庁「平成24年度 森林・林業白書」

- 東北森林管理局管内においてもシカの分布が拡大しており、造林地被害および早池峰山や白神山地周辺の自然植生への影響が懸念される。



群れで移動するシカ

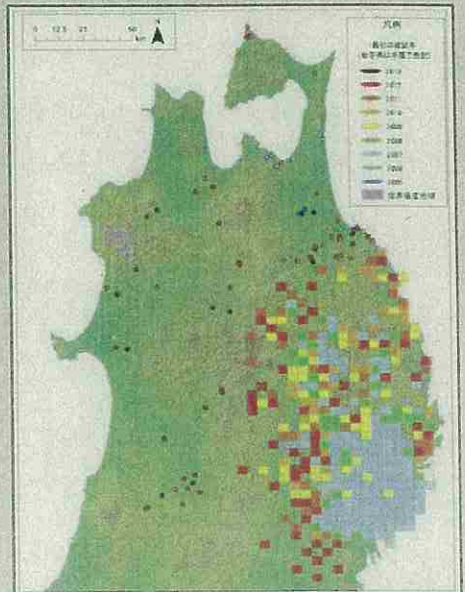


苗木の食害（遠野支署管内）



樹皮剥ぎ被害（遠野支署管内）

北東北3県におけるニホンジカ情報



注）岩手県は2012年度までの5kmメッシュごとの目撃・捕獲情報

（出典）第8回白神山地世界遺産地域科学委員会資料

【平成26年度の主な取組予定】

● 東北5県の国有林全域を対象とした監視体制の強化

県域を越えて配置されている国有林の組織力を活かし、ニホンジカの広域監視体制を創設します。チェックシートを活用し、職員による情報収集はもちろん、国有林野で作業を行う事業者や入林者に働きかけ、国有林に係る関係者の総力を挙げてシカの日撃情報を収集します。

また、これらの情報を踏まえ、有識者等を交えた検討会を開催し、東北地域のニホンジカ被害対策に取り組みます。



チェックシート

● 白神山地世界自然遺産におけるモニタリング体制を強化

新たにニホンジカ監視用のセンサーカメラ45台を設置し、モニタリング体制を強化します。

また、チェックシートにより収集する目撃情報と併せて、これらの情報を活用し、科学委員会の助言を受けつつ関係機関と連携して対策を進めます。



センサーカメラ



科学委員会での検討

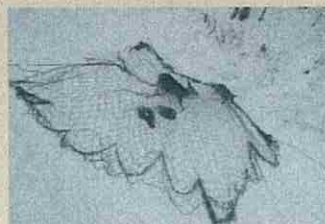
● モデル地区を設定し、被害を防止するための新たな技術を実証

国有林内にモデル地域を設定し、新たなシカ捕獲手法等の技術についての調査・実証に取り組みます。

(新たな技術の例)



パッチディフェンス

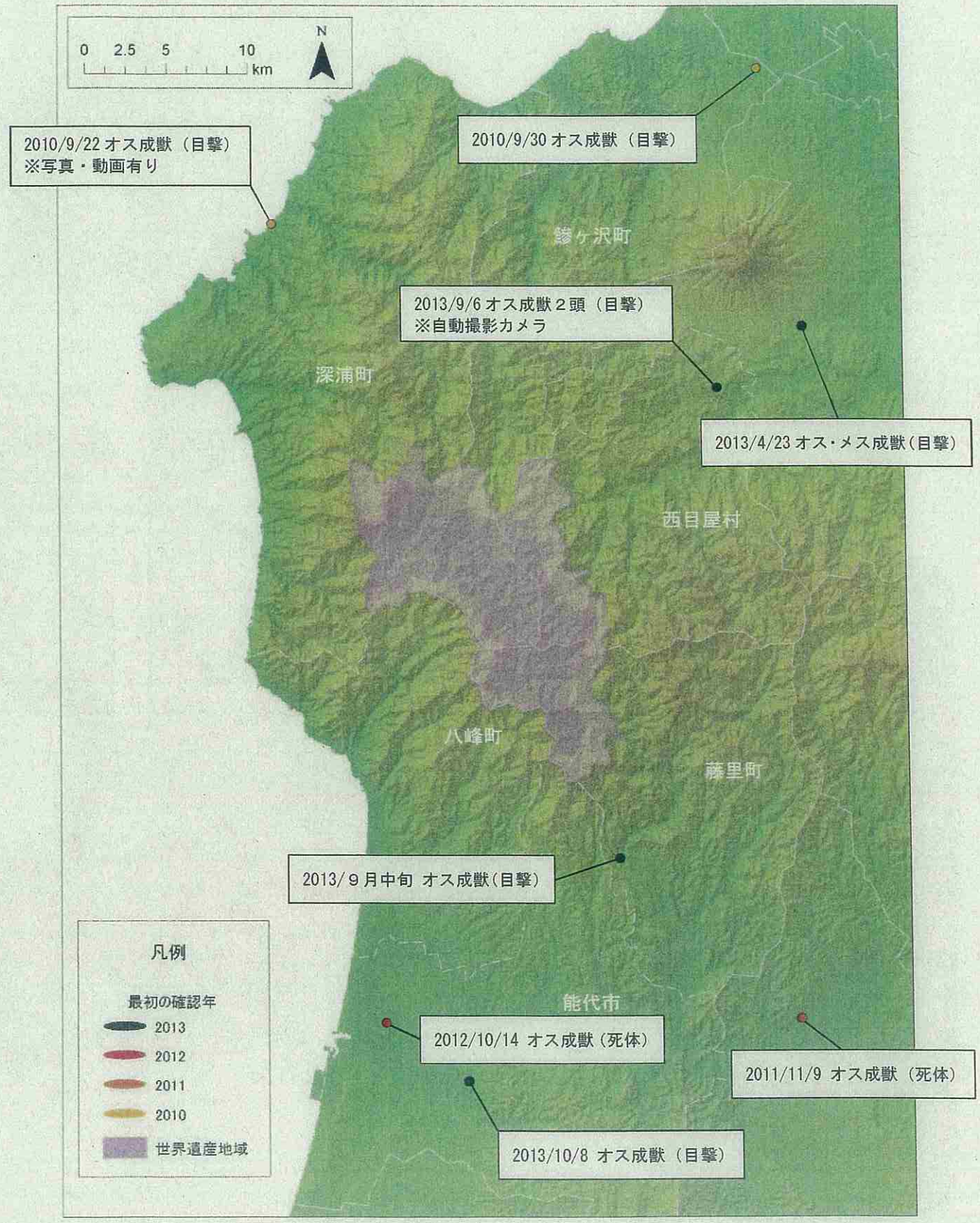


ドロップネット



シャープシューティング

白神山地世界遺産地域周辺におけるニホンジカ情報

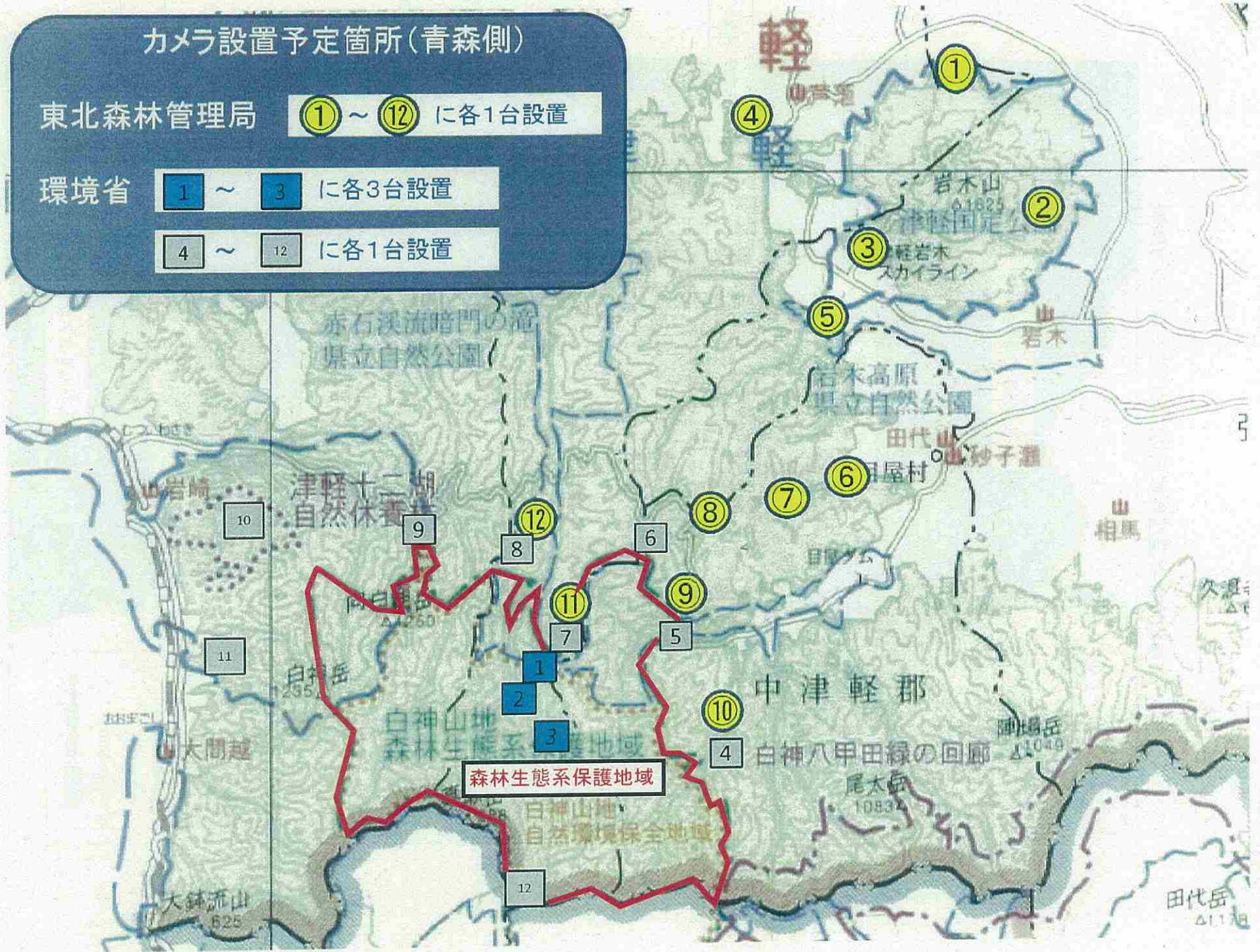


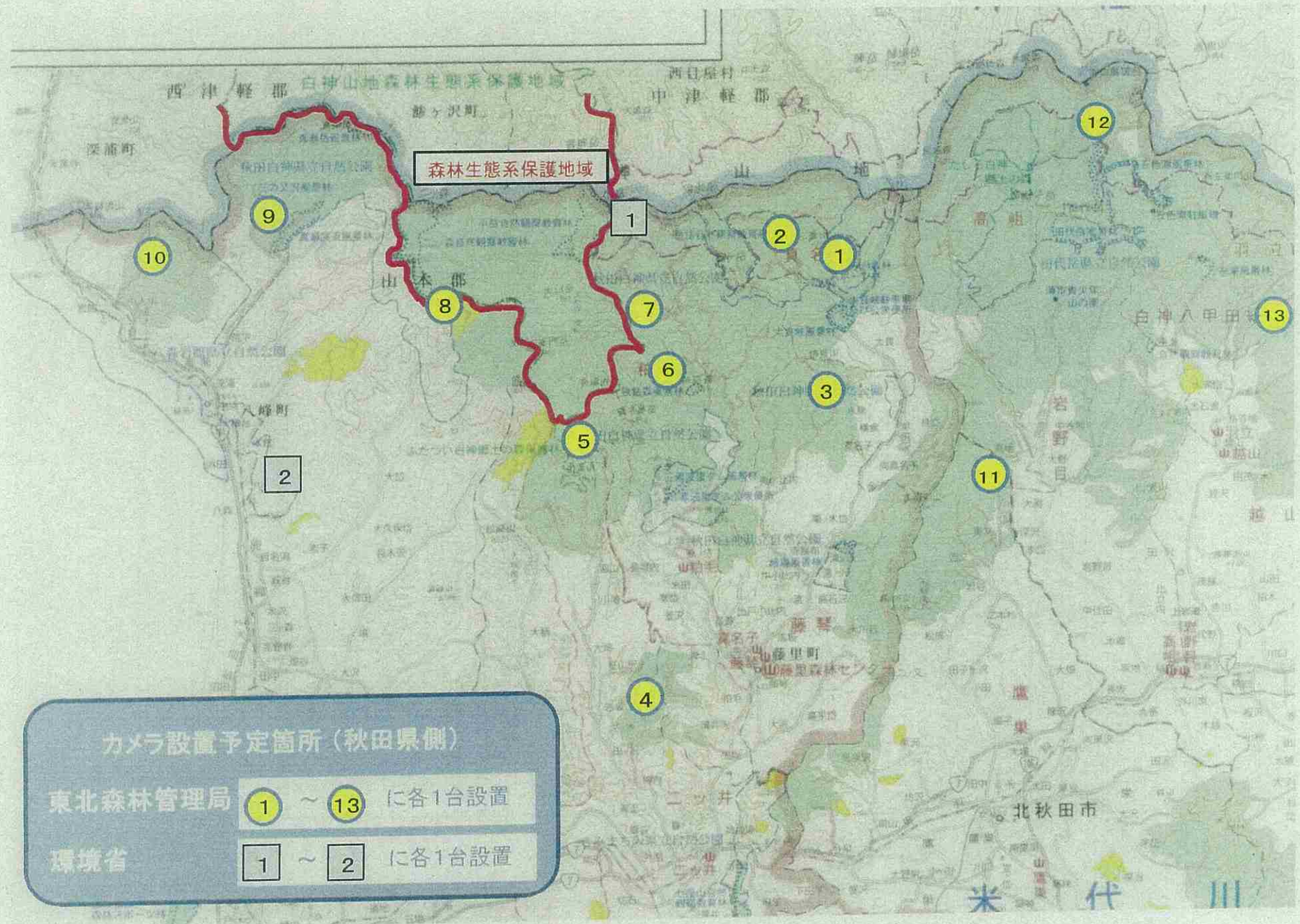
カメラ設置予定箇所(青森側)

東北森林管理局 ① ~ ⑫ に各1台設置

環境省 ① ~ ③ に各3台設置

④ ~ ⑫ に各1台設置





森林生態系保護地域

カメラ設置予定箇所 (秋田県側)

東北森林管理局 ① ~ ⑬ に各1台設置

環境省 ① ~ ② に各1台設置



(参考)

ニホンジカ影響調査・簡易チェックシート

場所	署名	事務所	林班	小班	緯度経度	北緯: ° ' "	東経: ° ' "	
調査日	平成	年	月	日	林相	<input type="checkbox"/> 針広混交林	<input type="checkbox"/> 針葉樹林	<input type="checkbox"/> 広葉樹林
周辺環境	<input type="checkbox"/> 沢と隣接	<input type="checkbox"/> 畑・田と隣接	<input type="checkbox"/> 牧草地と隣接	<input type="checkbox"/> 左記以外				

※ 該当する口にチェック を入れる。チェック漏れのないよう確認すること。
 ※ 針葉樹林・広葉樹林とは、それぞれの針葉樹・広葉樹の材積歩合が75%を指し、それ以外を針広混交林とする。
 ※ 食痕の判断については、意識しないで食痕等が目につくのは「多い」、探さないで食痕等が見つからない場合は「わずかにある」とする。
 ※ 樹皮剥ぎ等の「新しい」は、直近の積雪期の樹皮剥ぎ等とする(暗く変色していないもの)。樹皮剥ぎ等比率は本数比率とし、目測でよい。
 ※ 植栽木の調査調査本数は、下刈期のものは50本を目安とするが、それ以上の林齢の箇所は適宜減らしてよい。


■ A. ニホンジカの確認について

A1. シカを見た、または声を聞いた。 見た(♂ 頭、♀ 頭、不明 頭) 声を聞いた 以前ここで見た 見ていない

死体・骨 角 痕跡はない

A2. シカの痕跡があったか。 足跡・シ道(ニホンジカ) 足跡・シ道(シカ・カモシカ不明) 糞(ニホンジカ) 糞(シカ・カモシカ不明)

■ B. シカの食痕について

B1. 樹皮はぎがあるか。 見られる(新しい・古い) 見られない 


B2. 下枝に食痕があるか。 見られる(新しい・古い) 見られない 傷があるが食痕かは不明

B3. 草本・灌木に食痕があるか。 見られる(新しい・古い) 見られない 傷があるが食痕かは不明 植生がない

B4. ササに食痕があるか。 見られる(新しい・古い) 見られない 傷があるが食痕かは不明 ササがない

■ C. シカの影響について

C1. 樹木(2m以上)の枯死 立ち枯れがある 見られない

C2. 下枝(2m以下) 少ない(目安:5本/100m2以下) 多い 

C3. 小径木や灌木(2m未満) 少ない(目安:5本/100m2以下) 多い

C4. 草本・ササの量 豊富 疎生(原因:シカ・照度不足) ほとんどない(原因:シカ・照度不足)

※ 人工林では次の調査についても実施する。(植栽木50本程度について)

■ D. 植栽木の被害について

調査本数: _____ 本 植栽樹種名: _____ 植栽年: _____

D1. 新しい角こすりがみられる 約 _____ 本

D2. 樹皮の食痕が見られる 約 _____ 本

D3. 頂芽の食痕が見られる 約 _____ 本

D4. シカによる幹折れの痕跡が見られる 約 _____ 本

自由記述欄(シカの被害状況や下層植生に関する事で、気がついた点があれば記述する)
